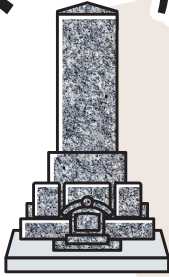


# 墓石の最高級 とされる 「庵治石」とは



お墓づくりでは、どの石材を用いるかも注目したい点の1つです。高級な石材は色つやが一般的なものより良く、耐久性に優れているものが多いです。ここでは**国産石材の最高峰「庵治石(あじいし)」**について紹介します。

## 庵治石とは

「花崗岩のダイヤモンド」とも呼ばれている庵治石、磨けば磨くほどつやが出るのが特徴です。庵治石の主な成分は石英と長石ですが、そこに黒雲母も少し含まれています。磨いていくと、この黒雲母がまだら模様につき上がってきます。さらに磨き続けると、石の表面は鏡のような光沢を帯びていき、まだら模様に濃淡ができて、他の石にはない美しい紋様が浮かび上がってきます。この美しさが、庵治石の最も大きな特徴と言えます。

## 庵治石の硬度

庵治石の長所は美しさだけではありません。庵治石は硬度が高く、耐久性に優れた墓石でもあります。硬さを比較する尺度にモース硬度というものがあります。1~10で硬度を表し、数値が高いほど硬いということになります。庵治石のモース硬度は7です。庵治石は、鉱物の結晶が極めて緻密で、その硬さはガラスや鋼鉄なども傷つけられる水晶(石英)に匹敵します。

## 庵治石の種類

庵治石は、細目(こまめ)、中細目(ちゅうこまめ)、中目(ちゅうめ)の3種類に分類することができます。分類の基準は結晶の細かさで、結晶が細かいものほど高級品になります。細目は庵治石のなかでも最高級品とされており、一番色が濃く、磨くと黒雲母の美しい斑模様が出てくる石です。中細目はその名の通り、細目と中目の中間にある石で、色は細目よりも薄く中目よりも濃いです。ただ、採石量は他の石よりも少ないです。中目は庵治石の中でもっとも白が強い石になります。磨けば庵治石特有の斑模様は出てきますが、その色は薄くなります。

## 庵治石の産地

庵治石は香川県高松市にある庵治町と牟礼町にまたがる五剣山から採石されています。庵治石という名称は庵治町からとられました。日本でたった1箇所では採石できない貴重な石です。

## 庵治石が選ばれる理由

庵治石は現代でも、首相官邸石庭や六本木ヒルズなど、時代を代表するような著名な場所、権威のある建物に使用され、その存在感を放ち続けています。

そして、庵治石でできたお墓は、いつの時代も独特の風格と存在感ある佇まいを見せ続けてくれます。

庵治石が選ばれる理由。それは庵治石が持つ「美しさ」「硬さ」「希少性の高さ」はもちろんですが、大切な記憶や記録を未来へ紡ぐことができる素材力と長い伝統によって受け継がれてきた庵治産地の繊細な職人技が融合したブランド力にあると言えます。

数百年の時を経ても変わらない石質と、熟練の名工が引き出す深みある光沢は、時を超えて家族の想いを刻んでいく墓石にふさわしいものです。

## 庵治石が高級品と呼ばれる理由

庵治石がここまで高い理由はいくつかあります。その1つが希少性の高さです。庵治石は採石量全体のうち、わずか1~2%の石しか墓石にできません。庵治石の加工過程では自然の紋様や細かい傷の選別が徹底して繰り返され、使えない箇所をどんどん削り落としていくと、最終的に墓石に利用できるのはほんの一握りの部分となります。また、庵治石は鉄よりも硬度がある石であるため加工が難しいのです。庵治石を墓石に仕上げるのは、熟練の職人が時間をかけて行うので、加工にかかる費用もかさんで必然的に価格が高くなります。

## 庵治石のお墓を建てるまでの期間

庵治石は加工が難しいので、墓石にするまで時間がかかります。加工には高い技術が必要なので扱える職人も限られてくるのです。そのため、注文が多く入っていれば、その分仕上がりまでに時間がかかることもあります。また、原石の採掘状況も納期に影響があります。だいたいの目安ですが、原石の在庫があり、他のお客さんからの注文も少ない状態なら2ヵ月程度でお墓が建てられるとされています。在庫や加工者の状況が悪ければ、3ヵ月以上要するとされます。



## 庵治石は魅力が詰まった墓石

庵治石は、美しい斑模様と丈夫な石質が魅力的な石材です。さらに、変色に強く、吸水性が低いので長い間、その魅力的な色つやを損なわないという特徴も兼ね揃えています。雨風にさらされ続ける墓石にはぴったりの石材と言えます。こうした特徴を持つ庵治石は日本国内のみならず、海外からも高い評価を受けています。経済的に余裕があるなら一度は検討してみたい墓石です。